

令和4年度
第1回我孫子市景観審議会
会議録

令和5年2月20日（月）

(1)会議の名称	令和4年度 第1回我孫子市景観審議会							
(2)開催日時	令和5年2月20日(月) 午前10時～午前11時30分							
(3)開催場所	我孫子市役所 議会棟AB会議室							
(4)出席又は欠席した委員 その他会議 に出席した 者の氏名 出：出席 欠：欠席	委員							
	出	芝原由美	出	浅井芝樹	出	荒井歩 (会長)	欠	高山啓子
	出	野口修 (副会長)	出	片谷勉	欠	川上邦子	出	新井伸也
	星野市長 事務局(都市部 都市計画課 景観推進室) 森部長、林課長(兼)景観推進室長、沼崎課長補佐、 大井係長、幸元主任主事							
(5)次第	1. 開会 2. 市長挨拶 3. 議題『我孫子市景観形成基本計画等の見直しについて』 4. 開会							
(6)公開・非公開の別	公開							
(7)傍聴人の数	0名							
(8)会議の内容	次のとおり							

会議録(1.開会、2.市長挨拶は省略)

(審議に入る前に、互選により会長に荒井委員、副会長に野口委員が選出された。)

【荒井会長】ここから審議に移らせていただきます。議題となっております『我孫子市景観形成基本計画等の見直し』について、事務局の方から説明をお願いいたします。

【事務局】(議題説明)

【荒井会長】確認ですが、計画の全面改定ということでよろしいでしょうか。

【事務局】はい、全面改定です。

現行の景観形成基本計画は平成18年に改定したもので、その後、現在まで大きな改定はありません。今年4月に改定した都市計画マスタープランの内容を景観形成基本計画に反映するという形で進めていきます。

【荒井会長】都市計画マスタープランを読ませていただくと、大きな骨組みを変えて景観計画をこれから大きく変えていこうと市が考えていることがわかります。

委員の皆様のご意見をお願いします。

【片谷委員】岡発戸の斜面に設置されている太陽光発電設備が危険ではないかと気になります。これからも設置されていくのでしょうか。

【事務局】当該斜面林を伐採した太陽光発電設備の設置が問題となり、我孫子市では独自に太陽光発電設備の設置に係る条例を策定しました。この条例では、現行の手賀沼ふれあいライン特定地区を野立ての太陽光発電設備の設置の自粛を要請する区域としています。ご質問にありました岡発戸の斜面も、この区域内です。

自粛を要請する区域内に野立ての太陽光発電設備を設置したいとの相談があった際は、条例に基づいて対応しています。自粛要請のため強制力はありませんが、防災上、景観上、環境保全上の重要なポイントになりますので、粘り強く事業者働きかけています。

【片谷委員】わかりました。

【荒井会長】国が再生可能エネルギーを進めていく中で、景観とどのように折り合いをつけていくかがポイントです。今回の計画改定で反映できるところだと思います。

【野口副会長】景観を守っていく考えもあると思いますが、賑わいづくりをしていくためには、人を集める要素が必要になります。メインの集客場になるのは、手賀沼公園や手賀沼の景観が見える場所になってくると思います。遠方からも人を集めてくるためには、今の自然を保全し、他は何もしないという形ではなく、ある程度許容した景観づくりが必要です。

我孫子市は昼間人口があまりに少ないという弱点があると思います。例えば、手賀沼公園のカフェも、もっと水辺に張り出すようなところまで立地を許容すれば人が来るのではないのでしょうか。話題づくりになるような、何かシンポジウムのなものと並行してデザインとしてこういう事例があるということを周知しながらやっていくことは必要だと思います。文面だけではイメージが湧かないと思います。

【事務局】市民や事業者に、市が今何をやっているのか情報発信することが必要と認識しています。

【野口副会長】公園坂通りに関しても、坂全体を参道みたいな形で捉えて、集客力のある景観づくりに成功しているところもあれば、部分的な改修で頓挫してアンバランスな景観となってしまった失敗例もあります。何か通り全体のイメージを提示しながら権利者等とコンセンサスを取るようにぜひお願いします。

【荒井会長】今、合意形成が非常に大きなキーワードになっています。丁寧な説明のためにはわかりやすさが必要というご意見だと思います。規制のルールをつくるだけでなく、「こんなこともできる」ということを示しながら進めていったらどうでしょうか。

【浅井委員】資料3の「我孫子新田地区」で事業者が撤退したという話についてもう一度お聞かせください。

【事務局】現在、水の館にある農産物直売所のアンテナショップの跡地が我孫子新田地区にあり、数年前に市で跡地の活用事業者を募集しました。事業者を選定し、話が進んでいましたが、今年の1月に、事業者からコロナや物価高といった経済的な事情で辞退する旨の申し出があり、一旦白紙に戻ってしまったというのが現状です。跡地活用を進めている商業観光課で活用事業者の再募集を検討しています。

【浅井委員】手賀沼公園から親水広場の方に向かう間に遊歩道ができるという話はどうなっていますか。

【事務局】堤防強化のため今は盛り土がされています。現在の遊歩道に並行する形で整備が進められています。

【新井委員】河川管理者として補足すると、築堤はすでに終わっており、現在、堤防の上に我孫子市の遊歩道と河川の管理用通路を整備する工事を進めています。

【荒井委員】防災は大きなテーマの一つですので、そこは景観と切り離せないですね。

【新井委員】規制の仕方は難しいものです。太陽光発電施設の普及など国が進める施策に地方公共団体が反対することは難しいです。方法の一つとして、エネルギー施策を推進しながらも「ここは大事だから設置してはダメ」というエリアを設ける方法があります。

もう一つは、規制ではなくコントロールすることです。市で約束事をつくり、その中でなら緩和するというものです。

資料を見て思ったのは、規制は具体的に書いてありますが、誘導の方はまだ具体的になっていません。景観法に限らず他の法令でコントロールに活用できるものもあるので、市で検討していただければと思います。

【野口副会長】手賀沼の河川管理者である千葉県では、水辺のオープン化に関して部分的に開放していくような方針はありますか。

【新井委員】河川敷地の占用許可の絡みがありますが、市で都市地域再生に係る計画があればできます。

【事務局】市の事業計画が必要だということですね。まず、水辺を活用した事業計画があって、そこに結果として景観が形成されるものもあると認識しています。

【荒井会長】景観は他のさまざまな部署の計画を繋ぐことができますので、色々な要素を取り入れることで活発な動きが生まれると思います。

【芝原委員】我孫子の良いところは水辺に囲まれている点ですが、水害の危険性もあると思います。景観と防災の関係が気になります。

【事務局】利根川近くは市街化調整区域になっており、そこが浸水区域にもなっています。基本的には高台の上に市街地を集約・形成しています。ただ、我孫子が発展してきた主な場所の1つである布佐地域は、昔から利根川と一体に生活の場としてきました。そのため、危険だから高台に住んでくださいということは難しいことです。市では、大型排水機場を整備して市街地に水が流入しないように対応しています。

【荒井会長】資料を見ますと、手賀沼景観重点地区にかなり力を入れているのが理解できます。景観拠点 hands 手賀沼公園と手賀沼親水広場のほかに3つ加わるイメージですが、10年先、20年先を考えると、いずれ景観拠点や市の賑わいの場は移行していくと思われます。今は、短期的・中期的にどうするのかを踏まえた計画になると良いと思います。

また、景観拠点として「古利根沼」と「谷津ミュージアム」が挙げられています。いずれは2つを繋いでいけると良いと思います。何も無いところに人は来ないので、拠点となる賑わいのポイントを入れないとつまらなくなってしまう。

高野山も魅力的で、ビオトープに親子が集まっているのを見かけます。そういう層が我孫子を選んで住んでくれているとしたら、自然豊かな我孫子が評価されているということです。こんなに資源があるところはないと思います。

ただ、残念なのは木が切られていることです。緑の基本計画と連携するとありますが、市だけで担えるものではないので、市民の方と連携した取り組みとした方がいいです。「守ります」だけでは守れないところまで来ているんだらうなと感じています。規制＋誘導していく形がいいと思います。

さらに、市街化区域と市街化調整区域をどうつなげるかという課題もあります。ぜひ都市マスを踏まえて具体的なところまで踏み込んでみるといいかなと思いました。

公園坂通りも歩行者の目線を考慮した景観形成とあります。景観形成はシークエンスだと思います。点ではなく線とよく言われています。守るだけでなく戦略的なやり方で人を呼び込めるといいですね。

【事務局】誘導の観点として賑わいづくりとなる施策が必要だということですね。景観資源を活用することで、柏市側から見る我孫子の風景も変わってくると考えています。

【荒井会長】茅ヶ崎市が景観計画と生物多様性戦略と環境計画をまとめた計画にしようとしていました。その過程で、合意形成を図るために市民に意見を求めることをしていたので、参考になると思います。

【野口副会長】「古利根沼」と「谷津ミュージアム」をつなぐという話はよいと思います。行政の中で連携して実現してほしいと思います。

【事務局】どういうことをやりたいのかを計画に位置付け、点から線に展開できるようにしたいと思います。

都市計画マスタープランで「産業拠点」の1つに位置付けた、現在は市街化調整区域の下ケ戸地区において、新たなまちづくりを検討しています。将来、ここが「古利根沼」と「谷津ミュージアム」とのつなぎ役になる可能性もあります。

【荒井会長】ぜひ学生など若い方を巻き込んで進めていってほしいと思います。

委員の皆様他にご意見ございますか。

(意見なし)

それでは令和4年度 第1回景観審議会を閉会します。ありがとうございました。

以上